

帯広畜産大学原虫病研究センター共同研究報告書

2022年6月5日

採択番号	2021-共同-21		
研究部門	診断治療研究部門	原虫病研究センター 内共同研究担当教員	菅沼 啓輔
研究課題名	I International collaborative research on the diagnosis of Dourine between the NRCPD and HVRI OIE reference laboratories		
研究代表者	(ふりがな) 氏 名	所属部局等・職名	
	Zhe Hu	Harbin Veterinary Research Institute, CAAS	
研究分担者	Cheng Du	Harbin Veterinary Research Institute, CAAS	
	すがぬま けいすけ 菅沼 啓輔	帯広畜産大学原虫病研究センター・先端予防治療学分野・助教	
研究期間	2021年4月1日 ~ 2022年3月31日		
目的・趣旨	ウマ伝染性貧血の OIE リファレンスラボラトリー (Harbin Veterinary Research Institute) であり、ウマの感染症を多数研究している申請者の研究室へ、共同研究者の研究室で確立した媾疫トリパノソーマ分離・培養技術およびトリパノソーマ症診断技術を移転することを目的とした共同研究を展開する。さらに移転された技術を用いて、中国におけるウマトリパノソーマ症の疫学調査を行うことを目的とした。		
研究経過の概要	COVID-19 の蔓延により研究代表者の研究活動が困難であった。研究代表者の研究再開後のすみやかな実験開始にそなえ、研究分担者は web での媾疫トリパノソーマ分離・培養技術の指導と、診断用抗原および標準 DNA の材料となるトリパノソーマの培養維持を行った。		
研究成果の概要	関連研究の成果として、ウマトリパノソーマ症の流行状況の把握および感染リスク解析を目的として、パラグアイにおけるウマトリパノソーマ症の疫学調査を実施した。ここで得られた成果を、今後の共同研究事業において活用する。		
研究成果の発表	Suganuma et al., First molecular survey of animal trypanosomes in Paraguayan horses, Veterinary Parasitology: Regional Studies and Reports, 2022, 27, 100664 Yamazaki et al., Risk factors for equine trypanosomosis and hematological analysis of horses in Paraguay, Acta Tropica, 2022, 233, 106543		